

文献紹介

古田悦造 著

『多摩地域の歴史地誌—水と生活—』

之潮 2016年3月 120頁 1,800円＋税

著者が東京学芸大学で教鞭を執ること36年。その間、いくどとなく巡検に連れ出し、水と生活の関わりを実際に見聞させてきた。時に授業で学生を、時に学会¹⁾で学会員を、またあるときは市民講座で老若男女(実際には“若”はほとんどいないが)を相手に巡検に出かけていた。本書は、その内容をまとめたものである。従って、難しい専門書ではなく、一般の人が手にとって読めるようにと一般書の形を取るとともに、「2,000円でお釣りが出るように」とこの出版不況の中、利益を度外視した価格設定を配慮されたという苦勞談を後日聞いた。確かに、値段を見てページ数の割に手頃な値段になっているのが分かる。

「水と生活」の副題が示すように、水利用に焦点を当て、人々の生活の様子を歴史的に浮かび上がらせることを企図している。その実、著者が晩年しきりに言っていた、「地誌の良書が無い」や「歴史地誌²⁾の構築を目指し」に対する、ひとつの答えとして本書があると考えるのは、やや臆病が過ぎようか？

さて、本書の内容を目次と小見出しに従って書き出すと以下の通りである。

はしがき

第Ⅰ章 はじめに一歴史地誌学の考え方—

第Ⅱ章 湧水・小河川利用の生活

東京の地形

東京の湧水

東京の山城・平山城と小河川利用

第Ⅲ章 井戸水利用の生活

井戸の諸類型

多摩地域の浅井戸(「降り井」あるいは「下り井」)

武蔵国府跡周辺の井戸

第Ⅳ章 用水利用と生活

玉川用水と新田開発

初期新田と中期新田における開発過程

小川村の村落機能

輸送関係

土地生産力

小川新田の村落機能

輸送関係

土地生産力

小川村と小川新田の機能比較

第Ⅴ章 水道利用と生活

東京における近代水道事業

水道事業の進展

多摩地域における水道事業の推移

武蔵野市・昭島市・羽村市の水道事情

あとがき

水利用に焦点を当てた歴史地誌の構築を目指していると評者が強く感じるのは、自然水の利用から近代水道まで、時代にして先史時代の湧水利用から、平成年間の東京都水道事業統合までを射程に収めた内容になっていることである。まさに水利用を主題に、多摩地域の歴史地誌を構築しようとの意図のもとに書かれた1冊と言えよう。内容的には第Ⅰ章が総論で、著者が依拠している矢ヶ崎ほか編『地誌学概説』³⁾で提唱された、

身近な地域の地誌

歴史地誌

グローバル地誌

比較交流地誌

テーマ重視地誌

網羅累積地誌

広域動態地誌

の7つのアプローチにある「歴史地誌」をさらに深化させ、歴史地誌学(あるいは動態歴史地誌学)に昇華させようとしたものと言える。

水利用は、本書に触れられているように、ある時代には、「農業や植生・土壌・地形・気候」と大いに関連していたかも知れない。しかし、次の時代には植生や土壌・地形との関連が弱くなり、農業をはじめ交通や都市・気候の要因が強化される。さらに、次の時代には交通との関連が弱くなり、農業・都市・工業・気候の要因から説明でき、「時代とともに関連する地理的事象・要因」が変化する様子を通時的な視点とするに相応しい

ものとして取り上げられている。

第Ⅱ章以降が各論で、多摩地域を事例に、おおざっぱに言えば第Ⅱ章…古代、第Ⅲ章…中世、第Ⅳ章…近世、第Ⅴ章…近・現代という構成になっている。内容的には、第Ⅱ章が、国分寺崖線を中心とする湧水群とその利用について、第Ⅲ章が、まいまいず井戸に代表される掘り下げ井戸などを利用した井戸水の利用、第Ⅳ章が、玉川上水の開削に伴う武蔵野台地上における新田集落での生活、第Ⅴ章が、近代水道の導入と都営一元化の進展についてまとめている。

やや難点があるとすれば、第Ⅳ章に感じるが、北多摩郡内の新田集落を詳細に語っているのは章題から考えれば妥当なことだが、この時代にも湧水や、河川水を利用して生活していた人はいたはずで、そこへの言及が無いことはやや掘り下げが足りないような気がする。また、第Ⅴ章で取り上げた水道利用に関しては、1970年代に多摩地域の多くで農地から宅地へと転用され、それに伴い上水道の整備が急務であった。水不足が、「東京砂漠」の語を生み、東京区部に比べ高い水道料金は「三多摩格差」を呼び起こした。これを解消するために、各市町村営の水道事業を東京都へ一元化するわけだが、歴史地理学者が等閑視しがちな、現在(具体的には、奥多摩町の都営水道化)までを述べていることから、通時的であらんとする意欲は感じるが、上水道に触れるのみで「下水道」

への言及が無いのは、現代の事象として物足りなさを感じる。それまでの水利用では、下水は全く無視して良かったものであるが、現代事象を語るなら下水道のことにも触れてほしかった。特に著者の勤務していた地に近い東京都小平市は1990年度に下水道普及率が100%を達成した下水道先進地であることは、本書を構成するに示唆たり得たと思うだけに残念である。

本書は、東京学芸大学を退職する際の記念出版として上梓された経緯から、著者の言を借りると「9分の1喜ばしく、9分の1は怒ることもあり、9分の1は哀しく、そして9分の6(3分の2)は指導学生と過ごした楽しい時間」であったという。評者は怒られ、哀しませるばかりであったのでは無いかと汗顔の至りである。

注

- 1) その一部は、古田悦造「近年10年の学芸地理学会の趨勢—巡検を中心として—」, 学芸地理68, 2013, 4-6頁。にまとめられている。
- 2) 古田悦造「地域の形成と変化—多摩地域の歴史地誌—」(矢ヶ崎典隆・加賀美雅弘・古田悦造編『地誌学概論』朝倉書店, 2007), 16-21頁。
- 3) 矢ヶ崎典隆・加賀美雅弘・古田悦造編『地誌学概論』朝倉書店, 2007, 16-21頁。

(天野宏司)